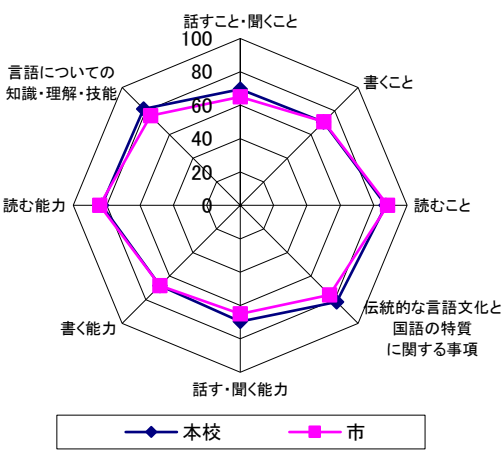


宇都宮市立富士見小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	69.6	65.0	62.9
	書くこと	70.6	70.9	71.3
	読むこと	87.3	88.4	87.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.8	75.8	75.3
観点別	話す・聞く能力	69.6	65.0	62.9
	書く能力	67.9	68.0	68.0
	読む能力	83.0	84.2	82.8
	言語についての知識・理解・技能	81.7	75.9	75.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話し手の意図を考えながら、話し合いの内容を聞くことができる。」の(1)については正答率が79.6%で、市の正答率を1.8ポイント上回り、(2)については正答率が93.5%で市の正答率を9.5ポイント上回った。 ○「司会者の役割を理解して、計画的に話し合おうとすることができる。」の正答率は35.6%で、市の正答率を2.4ポイント上回った。	・スピーチや発表の場を捉え、意図を持って話を聞くように日常的に指導を継続する。 ・話し合い活動の場を多く設定し、司会者の役割を体験することによって計画的に話し合いを進めたり、意見をまとめたりすることができるようにする。
書くこと	○「資料の内容を読み取って、文章に書き表す内容を理解することができる」の正答率は62%で、市の正答率を3.7ポイント上回った。 ●「資料の内容を読み取って、文章に適切に書き表すことができる」の正答率は44%で、市の正答率を7.4ポイント下回った。	・他教科との関連を図りながら、文章だけでなく資料との関わりについても注意深く読み取る学習を継続させていく。 ・自分の思いを自由に表現するだけでなく、筆者や問題の意図に合った文章を書くことができるように経験を積み重ねていく。
読むこと	○「登場人物の心情を読み取ることができる」の(2)正答率は81.5%で、市の正答率を1ポイント上回っていた。 ●目的や必要に応じて、場面の描写と登場人物の心情を読み取ることができる」の正答率は84.3%で、市の正答率を3.2ポイント下回っていた。	・朝の読書の時間のみならず単元との関連を図るなど、様々な機会を捉えて読書の時間を確保していく。 ・場面の様子や情景など、心情の変化が分かる細かな描写にも気を付けて読み取るような指導を繰り返していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「第5学年の配当漢字を読むことができる」や「第6学年の配当漢字を読むことができる」は、いずれの問題においても市の正答率を0.1ポイント～23.7ポイント上回っていた。 ●「国語辞典の使い方を理解している」の正答率は68.5%で、市の正答率を3.1ポイント下回っていた。	・ドリルの復習やまとめのテストを継続して行い、更なる定着を図るようにしていく。 ・授業の中で意図的に国語辞典の活用を図る。